

村橋靖之氏は、日本貿易振興機構（JETRO）のテルアビブ事務所駐在時、紛争が続くイスラエルとパレスチナ間での平和の実現には、まずお互いを知る機会が必要だと痛感。2004年に現在活動中である「Peace Field Japan (PFJ)」の前身となるNPO法人を有志と共に設立。2007年からは代表として多様な活動を精力的に行っている。

「PFJ」は、イスラエルやパレスチナなど紛争地域の青少年の交流を通じて平和な文化の創造を目指し、次代を担う若い世代が相互に理解、

文化の違いを超えて お互いを理解し合い 「絆」を築くことが 平和な文化を創造する

尊重し合える力を育む「場」を提供している。主な活動は「絆 KIZUNA プロジェクト」である。このプロジェクトでは、毎年イスラエル、パレスチナから数名の青少年を日本に招き、日本の青少年と共に2週間の合宿プログラムを実施している。

村橋氏はPFJのメンバーと共に現地のニーズを元に、日本人として何ができるのかと試行錯誤を重ねた結果、2007年、山梨県小菅村を舞台にその地域の自然、伝統、文化を共有し、対話を重視するプログラムを作り上げた。そして、参加者

全員が、人と人、人と自然、人と地域の「絆」に気づいて欲しいとの思いをこめて、学生スタッフたちにより「KIZUNA」と名付けられた。

紛争下の両地域では人々の交流は極めて限定的である。中でも若い世代は特に交流が少ない。この世代においてはパレスチナ人にとつてのイスラエル人は「兵士」。イスラエル人にとつてのパレスチナ人は「テロリスト」である。

しかし、習慣も文化も違う者同士が遠い日本で初めて出会い、共に生活し、同年代の若者としての悩み

や将来の夢を語り合うことによつて、少しずつ打ち解けていく。違いを認識するだけではなく、類似点を発見して驚き、またお互い共存できることを実感する。毎年、そこには確かな「絆」が育まれている。

日本の地方には、豊かな自然と地域社会が存在し、持続可能な社会を目指す上で大切な文化・伝統・知恵がある。これらは日本が世界に向けて発信すべき素晴らしい価値観でもあり、参加者たちは、その先に持続可能な平和があることに気づく。その名の通り、日本の「フィールド

「場」から世界に向けて持続可能な社会、持続可能な平和のあり方を発信するユニークな活動である。村橋氏の活動は、新しい視点での国際活動であり、益々の活躍が期待されている。



■KIZUNAプロジェクト2009に参加したイスラエル・日本・パレスチナの参加者



■Youth for Peaceプログラム2005でイスラエル・日本・パレスチナの参加者たちと村橋氏

むら はし やす ゆ き

村橋 靖之 独立行政法人日本貿易振興機構 リヤド事務所長

山口県出身。慶應義塾大学法学部政治学科卒業。1989年日本貿易振興会（JETRO）入会。2009年よりリヤド事務所所長。テルアビブ駐在時（1999年～2003年）は、イスラエル、パレスチナを管轄し、日本とのビジネス促進に努める他、両地域間の経済交流、信頼醸成活動に従事。2004年「Peace Field Japan (PFJ)」の前身となるNPO法人を設立。2007年より理事長を務める。

推薦者 後藤 庄二 有限会社ボナファイド 代表取締役

